

(3) トビイカ漁業に関する協議録（組織的調査研究検討会及びトビイカ漁業に関する協議会より）

① 需要の拡大と価格の安定

イ、トビイカの流通量と価格が安定すれば、個々の漁業者の水揚げは増加し、出漁隻数も多くなって、必然的に生産量は増加する。

ロ、現在の漁法はむしろ省エネ漁法で気軽に出来る漁法である。ただ個人差があるので工夫することによって漁獲を増大させられる。

ハ、漁業者が操業中の漁模様等を互に無線で交信することによって安全と集団操業が可能。

ニ、販売量が増大し、何時でも売れば宮古、八重山でも漁業者が増え、全体的に生産量が上がってトビイカ漁業振興につながる。

② 需要の拡大を図る考え方

イ、カミヤー販売が可能であれば生イカ需要は増える。カミヤー販売はコミュニケーションの場をつくり、手づくり料理方法が伝達できる。カミヤーの減少は消費量の減少につながる。

（注）カミヤー販売とは、タライ等に鮮魚を入れて各家庭をまわって販売する訪問販売のこと。しかし、食品衛生上から禁止されている。

ロ、さし身屋（鮮魚店）ではトビイカは墨が多く出るのでイカを洗うのが大変だといって販売しない。

ハ、与那原漁協では、洗ってからスーパーで販売を試みましたが、料理方法が分らないという人が多くて、殆んど売れなかった。（魚食普及、調理方法の指導、PRが必要）

ニ、沖縄での生イカ利用は、鉄板焼き、天ぷらのしんなどが多く、トビイカは肉質が硬いということで敬遠する。

ホ、石川市で燻製の試作販売とその拡大を図っている食品加工業者がいるのでその計画をきき、検討する必要がある。

ヘ、餌として、特に底魚用釣り餌としてトビイカは他の冷凍イカより良い。喰いつき、餌持ちも良い、また値段が安い。

③ トビイカ漁業経営の安定と漁海況予報

イ、トビイカの漁況は地域によって、年によって漁不漁があり変動している。

ロ、トビイカ漁業に対する漁況予報は販売価格や原料供給、確保などに有効である。

ハ、沖縄本島南部の漁業者は、トビイカの漁況の予報的なことをしている。7月、8月頃流況や体感（水のぬるみ具合）で予測する。水産試験場でも詳しくきいて検討する必要がある。

8. 要約

a、久米島のトビイカの漁獲量は、9月以降の仲里村真泊沖漁場の量如何で豊凶が決まる。

b、1日当りの平均漁獲量が20kgを超して1ヶ月に11日以上漁獲日数があれば好漁である。

c、月令により漁獲量変動がみられ、月夜には少ない。これは全県共通している。